

學士中村一徹君が熊崎専務と職工側との會見を斡旋した。然るに熊崎専務は十八日十九日に涉つて一再ならず會見の違約をしたので、中村工學士は憤然として熊崎専務の態度を非難し、其斡旋を拒絶した。熊崎専務は何が故に斯る不誠意極まる違約をしたのであるか。

「長」階級の醜惡な態度

日本現在の産業組織に於て労働争議の起つた時其進退去就に迷ふものは、労働者中會社の任命に依つて労働者の「長」階級になつて居る者である。彼等は資本家と利害を異にする労働者であると俱に又彼等は資本家から特別な待遇を受けてゐる労働者である。理論の上から彼等は當然労働者に味方すべき者であるが、目前の小利害關係と、而して感情的には資本家の味方をする傾向がある、殊に國池製作所の職工團が會社に要求した項目には産業民主の第一歩である所の「長」階級選舉に關す

を中心として、成る可く職工團が熊崎専務と會見せざるやうに、暗中飛躍を試みたのである。

併しながら斯くの如き行動は日本の労働運動を阻止し、同時に自己永遠の幸福、裏切るものであつて、其應報は靚面に來り、將來を待たずして争議解決後、職工等の就業に際し、「長」階級は反對に出動を遠慮し、職工團に哀訴するが如き醜態を演じたのである。

意思の薄弱なる人々

如何なる國如何なる時に於ても労働者の大敵は罷工破りである。國池「長」階級、暗中飛躍の結果、斯くの如き理想的な労働者の運動にも四十幾人の罷工破りが生ぜんとした事、洵に止むを得ない事である。其主謀者は〇〇〇〇其他「長」階級に縁故のある者で、十五日間も非常な貧苦困難を忍び奮闘し來つた者を巧言を以て釣り、誘惑煽動し彼等に労働者として最も無棄すべき罷工破りを行

る件があるので、彼等は理智的に、産業民主に賛成し、「長」階級の選舉は當然なりと思つてゐるが目前の利害關係から感情的には夫れに反對した。そこで争議の起らんとするや中立と稱し、争議の起るや調停すと稱して左の如き調停案を職工側に提示した。

- 一、八時間制は現在にありては不可能なるを以て十時間制とし、内休憩時間一時間を含む事
- 二、一割増給の事
- 三、退職手當及び解雇手當は會社後日の規則改正の場合要求に應ずる事
- 四、「長」階級の選舉に關する事は全然撤回する事

此調停案は一議に及ばず職工側の怒聲に葬られて仕舞つた。斯くて「長」階級は自己の立場を失つたのである。彼等は自己を擁護せんが爲めに全然職工團に反對せざるを得なくなつた。乃ち陰に職工團の切崩し運動に着手し、同時に渋谷工務課長はしめんとした。獅子身中の蟲として争議解決後其主謀者が制裁を受けたのは勿論である。唯憐憫なるは貧苦困難を堪へ忍んで十五日の長きに亘り力戦したにも關らず最後の五分間で罷工破りの汚名を着やうとした心弱き人々である。其一人は争議解決後死を以て此罪を贖はんとした。

示威運動の演説會

對陣拾四日、陰忍して會社の反省を求めた職工團は、會社に全く誠意が無いと見るや、猛烈なる示威運動を開始し、大演説會を催した。廿三日廿四日廿五日に涉つて演説會場に向ふ途次、夕開を破つて労働歌を高唱しつゝ、東京鐵工組合の紫の會旗を先頭として、二百有餘名が大崎町を練り歩いた、各工場の労働者は場内より萬歳を叫んで示威運動を歓迎し然らざる者も亦走り來つて一行を歓迎した。

廿三日夜は不當解雇發表演説會として廿四日夜